

長畝ふるさと通信

【2019年3月号】

■ 2度あることは3度あつては困る！

年度	面積	生産量(30kg袋)	平均反収
28年産	46.7ha	7,874袋	8.42俵
29年産	48.3ha ↑	7,267袋 ↓	7.51俵 ↓
30年産	49.6ha ↑	6,154袋 ↓	6.20俵 ↓

この表は過去3年間の組合のコシヒカリ生産実績を表したものです。作付面積は増やしているのに、生産量が減少しています。特に平成30年産は「激減」です。売上高ベースで言えば1千万円以上も減収しているのです。まさに経営の危機です！今年の最大の目標は「計画反収8俵死守」です。そのための秘策は特にありませんが(お天気の神様にお願いする以外)、「やれることをやれるときにやり切る」しかないのかなと…。



丁寧に畦ぬりをし、時間をかけて耕耘をして田んぼを安定した「稲作装置」に整備する。田面が平らで土のキメが細かく、しかも漏水せず水持ちが良いことが稲作田んぼの前提条件です。今年は雪が少なく、水不足が心配なのでいつもより時間をかけて、丁寧に仕上げるよう作業を徹底しています。

■ やればできるJA

政府から散々「自己改革」を求められたJAが元肥肥料の価格を見直しました。これまでは佐渡独自の元肥肥料を販売していましたが、今年から低コスト肥料となる新潟県統一肥料に切り替えることで1袋当たりの価格が約630円も落ちました。成分もほとんど同じなので、わが社もこの肥料に切り替えることにしました。このタイプの元肥はひとシーズンで1,000袋ほど使うので約63万円のコストカットになります。

「小さいことからコツコツと」を日々意識してこれからの米価下落に備えたいと思います。「欲しがりません、勝つまでは」…まるで戦時中です。



■ トキのみかた(見方～味方)

佐渡のトキは野生下で348羽にもなりました(3月4日現在)。この10年の間に放鳥されたトキは327羽でそのうち168羽の生存が確認されています。また、野生下で誕生したトキは現在180羽にもなるそうです。そこで佐渡市では「トキのみかた」についてこんな看板を設置しています。



心無いウォッチャーは望遠レンズ付きの高級そうなカメラを構えながら、平気で田んぼに入り、トキに近づこうとします。トキは臆病なので人間を察知するや否や採餌行為をやめてどこかに飛び去ってしまいます。また、羽ばたく瞬間を撮影するために、わざと車から降りて大声を出したりしながらトキをムリムリ飛ばす強引な輩も目にします。「せっかくだから」という気持ちは理解できますが、これではどこかの観光地で問題になる外国人と変わりません。マナーを守るのが日本人でしょ。「映える」は二の次にしてもらえませんか……。

■ ゲノム編集技術について

テレビで「ゲノム編集技術」で品種改良した農産物を国に届け出るだけで販売できるというニュースを見た。血圧を下げるトマトや筋肉が1.5倍になった真鯛などが紹介されていた。なんと多収性のコメも作れるらしい。倫理的な難しいことはほっといて、安全性はどれほど担保されているのだろう。将来的に問題がないかは不明なのに、首相は「安全性が確認されないものは流通させない」と矛盾した発言をしていた(無責任でしょ)。未来の食糧難に向けて食糧の開発をするのは決して悪いことではなくむしろ応援しますが、今から売るのはいかがなものか。多収米で言えば、コメは余っているのに矛盾しませんか? 「手っ取り早く安くても儲かるコメ」ってことですよ。自らコメの価値を下げる行為だと思います。トキの事は考えず、自分だけよければ……ウォッチャーと変わりませんな。

田んぼの水は自然が与えてくれる量でしか使うことができません。

